

令和4年度 岩手県立農業大学校主要課題達成状況(年間)及び自己評価結果

資料No.1

【自己評価結果の基準】 A(良い) B(概ね良い) C(やや不十分) D(不十分)

| 項目 (何を) | R4 達成レベル・目標 (いつまでに、どういう状態にするか) | 達成状況 | R4 達成手段・方法 (重要なプロセス・チェックの方法など) | R4 自己評価結果 |
|------------------|---|--|---|---|
| 1. 新規就農者の確保・育成 | | | | 1 新規就農者の確保・育成 A評価 定員充足には至らなかったものの、資格取得や就職率等は概ね目標を達成していることからA評価とした。 |
| 1.1 意欲ある学生の確保 | 1 農業(就農)を志向する学生の確保 本科定員確保 農産園芸学科 50名(前年35名) 畜産学科 20名(前年16名) 合計 70名(前年51名) | 1 農業(就農)を志向する学生の確保 本科定員確保 農産園芸学科 39名 畜産学科 14名 合計 53名 | 1 学生募集活動の強化 ① 高校訪問による募集活動 ・ 県内高校及び実績校等への訪問(県内全校訪問、随時) ・ 県外農業系高校への訪問の継続(青森、秋田、宮城) ② 各種説明会出席及び教職員との交流 | 1.1 意欲ある学生の確保 A評価 学生の募集活動や学校情報の発信など学生確保に鋭意取り組み、前年度から2名の増加となったことからA評価とした。ただし定員の7割余りに止まっていることから、今後も定員確保に向けた取組みを進めることとする。 |
| | 2 本校の教育内容に興味を持つ高校生の確保 (1) オープンキャンパスへの参加者の確保 本科定員70名以上 (2) 農大の学習内容や寮生活への理解の推進 | 2 本校の教育内容に興味を持つ高校生の確保 (1) オープンキャンパスへの参加者の確保 本科定員70人に対し、2回の合計参加者75人 (2) 農大の学習内容や寮生活への理解推進 | 2 教育内容等に係る情報発信の充実 ① オープンキャンパスの開催(7、8月に2回) ② 農大からの情報発信活動の強化 ③ 新しい農業技術(スマート農業及びGAP、HACCP)のPR | ・学校アンケート結果 (1-1)学生募集活動 A (1-2)諸経費の額等 A (1-9)入学満足度(学生、父母等) A |
| 1.2 学力の向上とスキルアップ | 1 農業実践力の向上 (1)実践的な資格等の取得 【共通】 学生に対する取得者の割合 ① 日本農業技術検定取得者60%(前年53%) ② 大型特殊免許 50%(前年51%) ③ けん引免許 25%(前年27%) 受験者に対する取得者の割合 ④ 日商簿記検定3級30%(前年0%) 【農産園芸学科】 受検者数に対する取得者の割合 ① フラワー装飾技能証取得(2級実技免除)100% 【畜産学科】 専門資格の取得(令和5年1月までに) 1 畜産学科2年生全員が家畜人工授精師免許を取得 2 畜産学科2年生の内、受験希望者が2級認定牛削蹄師認定試験に合格 | 1 農業実践力の向上 (1)実践的な資格等の取得 【共通】 学生に対する取得者の割合 ① 日本農業技術検定取得者(高校在学中の取得者を含む) 2級、3級取得率 57.5%(57名/99名)うち2級8名 ② 大型特殊免許 38%(38名/99名) (内訳)大特27名、大特(農耕用)11名 ③ けん引免許 26%(26名/99名) (内訳)けん引6名、けん引(農耕用)20名 ④ 日商簿記検定3級 0% 【農産園芸学科】 ① フラワー装飾技能証合格 100% (うち技能五輪代表2名、うち1名敢闘賞受賞) 【畜産学科】 受験者に対する取得者の割合 ① 17名受講し16名が合格 ② 15名全員合格 | 1 実践力向上に向けた教育の充実 (1) 資格取得等に係る指導強化(講義、課外授業及び個別指導等) 【共通】 ① 日本農業技術検定 参考書・問題集貸出し ② 大型特殊免許、③けん引免許 ・受験機会の確保 ・受験時期の分散 ・受験対策 説明会、実技練習、練習精度の向上 【農産園芸学科】 ①-1 練習時間を確保するため、専攻実習を技能五輪県大会前に集中配置 ①-2 取得に向けた課外授業実施 【畜産学科】 1 岩手県が開催する家畜人工授精に関する講習会を受講 一部、畜産概論や家畜繁殖などの科目は通常授業で実施 2 日本装蹄師協会が開催する2級認定牛削蹄師認定講習会を受講 専攻実習Ⅱにおいて削蹄実習を実施 | 1.2 学力の向上とスキルアップ A評価 資格取得については、目標を達成した資格が多く、成果を上げることができた。 卒業研究は全員が成果のとりまとめと発表まで実施した。全国農大意見発表会出場のほか、ヤンマー懸賞作文において銀賞及び銅賞、県農林水産部政策提案型調査研究コンテスト学生グループ最優秀賞、技能五輪全国大会フラワー装飾敢闘賞など、課題解決能力や実践的なスキルの向上に成果があった。 また、2名が四年制大学への編入を実現した。 以上のとおり、学力向上とスキルアップへの取組の成果が認められたことから、A評価とした。 ・学校アンケート結果 (1-3)資格取得の指導体制について、カリキュラム体系的な位置づけ A |

| 項目 (何を) | R4 達成レベル・目標 (いつまでに、どういう状態にするか) | 達成状況 | R4 達成手段・方法 (重要なプロセス・チェックの方法など) | R4 自己評価結果 |
|------------|--|---|---|--|
| | <p>2 課題解決能力の向上 (1) 実習、事例研究等を通じた技術と経営能力の向上</p> <p>【農産園芸学科】 ① [1年] 主要品目の栽培管理技術、調査手法の習得 ・年間を通じた栽培管理と定期的な生育調査により基本的な栽培管理術と調査手法を身につける。 ・作物の収穫が終わる11月までに実施</p> <p>○農産 事例研究で経営評価の重要性を理解し、卒業研究においても積極的に経営試算を行う。</p> <p>○野菜 卒業研究では基本的な経営試算方法を習得する。事例研究では経営的視野を広げる。</p> <p>○果樹 卒業研究作成時には、学生全員が一定レベルまで経営面を掘り下げることができるようにする。</p> <p>○花き 事例研究を通して、切り花生産・経営、鉢物生産・経営、流通・販売、品種開発等、花き生産について幅広く理解を深める</p> <p>【畜産学科】 ① 酪農 [1年生] 2月までに「牛舎当番作業手順」及びHACCP計画を理解のうえ搾乳手順を習得(80%マスター) [2年生] 10月までにマニュアルどおりの搾乳手順を習得し、発情や異常牛の報告するとともに、その内容についてファームノートに記録する(80%マスター)。 ② 肉畜 [1年生] 2月までに学生飼養管理当番がマニュアル(飼料給与、個体観察)どおりの飼養管理を習得(80%マスター) [2年生] ・マニュアルに沿った飼養管理の継続 10月までに個体観察能力の向上による疾病等の異常牛の早期発見し職員への報告及びファームノートへの記録の徹底(100%マスター)</p> <p><鹿児島全共対応> ・7月27日 出品牛県最終選抜会に出場し、県代表となる。 ※盛農高、水農高、農大の3校が出場(予定)し、代表枠は1校 ・10月上旬 鹿児島全共に出場し、上位入賞する。</p> <p>(2) 卒業研究等を通じた課題解決能力の向上 【共通】</p> | <p>① [1年] 主要品目の栽培管理技術、調査手法の習得 概ね達成できた。</p> <p>② [2年] 経営管理における基本事項の理解と経営の改善・発展の視点の確保 概ね達成できた</p> <p>【畜産学科】 ① 酪農 概ね達成できた ② 肉畜 概ね達成できた</p> <p><鹿児島全共対応> 県最終選抜会を通過できず。</p> | <p>2 課題解決能力のに向けた教育の充実 (1) プロジェクト学習や実習を通じた課題解決力と事例研究等による応用力の習得指導</p> <p>【農産園芸学科】 ① 専攻実習における1年生プロジェクト研究の推進 グループ単位による栽培管理及び調査を実施し、その結果をとりまとめ、農大祭等で発表 ・(農産)水稲奨励品種の栽培と品種に係る決定調査 ・(野菜)秋冬野菜の栽培と生育調査(農大祭プロジェクト) ・(果樹)りんごの生態、果実肥大調査といわて純情りんごコンテストへの出品 ・(花き)りんどう等主要花きの生育調査</p> <p>○農産 事例研究 ○野菜 卒業研究では効果的に経営評価ができるよう計画段階から指導する。事例研究では経営まで学ぶことができる視察先を選定する。 ○果樹 1年生のうちから、授業等で経営試算方法を学ばせたり、事例研究のレポートに経営面の内容を盛り込ませるなど、意識させる。 ○花き 卒業研究や農家派遣実習とのつながりにも配慮しながら、年4回程度の事例研究を実施</p> <p>【畜産学科】 【共通】 家畜飼養管理Ⅰ・Ⅱおよび専攻実習Ⅰ・Ⅱで農場HACCPシステムへの理解醸成と作業分析シートに基づく作業手順を指導 ア 酪農 家畜飼養管理Ⅰ・Ⅱ及び専攻実習Ⅰ・Ⅱを通じ、技術と理論の定着を図る(課題解決型の演習など)。定期的に搾乳及び飼養管理(哺育・育成牛、搾乳牛、周産期牛)作業手順の目合わせと解説を行い、生産工程管理の精度向上につなげる。(家畜飼養管理Ⅰ及び専攻実習Ⅰ内で) イ 肉畜 家畜飼養管理Ⅰ・Ⅱ及び専攻実習Ⅰ・Ⅱを通じ、技術と理論の定着を図る(課題解決型の演習など)。定期的に飼養管理(哺育・育成牛、繁殖牛、肥育牛)作業手順の目合わせと解説を行い、生産工程管理の精度向上につなげる。 (家畜飼養管理Ⅰ及び専攻実習Ⅰ内で)</p> <p><鹿児島全共対応> ・4月 出品チームの決定(13名の学生のうち4名を選抜) ・4~7月 出品に向けた取組 ・体重測定:2週間毎、体高測定:4週間毎 ・追い運動、つなぎ運動(4~5月は週2回、6月以降平日はほぼ毎日) ・7月 取組発表スライドの作成</p> <p>(2) 学生間の活発な意見交換(討論)や協働の誘導による課題解決プロセスの習得指導 【共通】</p> | <p>・学校アンケート結果 (1-4)事例研究・農家派遣実習等の教育体制整備</p> <p>・学校アンケート結果</p> |

| 項目 (何を) | R4 達成レベル・目標 (いつまでに、どういう状態にするか) | 達成状況 | R4 達成手段・方法 (重要なプロセス・チェックの方法など) | R4 自己評価結果 |
|------------|--|---|---|---|
| | <p>① 卒業研究プロジェクト</p> <ul style="list-style-type: none"> テーマの設定とその課題解決手法に重点を置いた課題解決プロセスを習得する。 ⇒テーマ設定は1年生終了時(2月)までに、課題解決プロセス習得は2年生12月までに 東日本農業大学校等プロジェクト発表会入賞者:プロジェクト発表で1名以上 プロジェクト発表について12月まで指導 卒業研究計画を3月までに作成 <p>○農産 卒業研究遂行のために計画的に取り組む力を身につける。</p> <p>○野菜 卒業研究取りまとめ時まで、テーマの設定とその課題解決手法に重点を置いた課題解決プロセスを習得する。</p> <p>○果樹 1年生のうちに、基本的なデータ集計方法(エクセル操作等)を学ばせ、それらのデータから図表を作成できるようにしておく。</p> <p>○花き 卒業研究を通して、責任をもって物事を計画的に遂行する姿勢や、事実に基づいて科学的に思考する能力を身につける</p> <p>○酪農 東日本農業大学校等プロジェクト発表会入賞者:プロジェクト発表で1名</p> <p>○肉畜 課題解決手法に重点を置いた課題解決プロセスを習得する。 東日本農業大学校等プロジェクト発表会入賞者:プロジェクト発表で1名</p> <p>【農産園芸学科】</p> <p>① 主要な必須管理点の適合基準に沿った取組の実施(農産、野菜、果樹)</p> <p>○農産 ASIAGAPの取り組みを具体的に理解させる</p> <p>○野菜 栽培管理スケジュールに合わせてマニュアルや手順書の指導を行い、栽培期間を通じて実践できるようにする。</p> <p>○果樹 対象学生が代わっても、農場の取り組みが維持されている。 ⇒ ASIAGAP維持審査を受ける10月まで</p> | <p>① 卒業研究プロジェクト 概ね達成できた。 東日本農業大学校等プロジェクト発表会入賞者 なし</p> <p>【農産園芸学科】 概ね達成できた。 全国農大協意見発表会出場</p> | <p>①-1 卒業研究の計画作成(1年)</p> <ul style="list-style-type: none"> 研究課題設定に向けた情報収集(農家派遣実習、地域懇談会等) 計画検討に向けた職員打ち合わせの実施 12月 研究テーマの設定 経営科ごとの研究計画検討会 学科ごと卒業研究計画発表会 <p>①-2 卒業研究の実施と成果のまとめ・発表(2年)</p> <ul style="list-style-type: none"> 中間検討会 研究成果検討会 経営科別発表会 全体発表会 東日本発表会、全国発表会に向けた事前指導・参加 <p>○農産 作業計画、調査計画を立てスケジュールリングを行う。 調査データは、すぐに集計し考察する。</p> <p>○野菜 1年次のうちに、データ集計、グラフ作成方法等は、一通り経験させておく。 学生間で活発な意見交換(討論)ができる機会を設ける。 到達度と期限を明確にした進捗管理を行う。</p> <p>○果樹 1年生の授業の中で、データ入力・集計を学ぶ時間をつくる。また、データから何が読みとれるかを学生同士で議論させる。</p> <p>○花き 早期にテーマ決定することで、基礎的知識や調査方法等についての事前準備を充実</p> <p>○酪農 9月までに中間検討会のための卒業研究の実施とデータ取りまとめ 11月までに研究成果発表用の取りまとめ 1月までに研究成果取りまとめ</p> <p>○肉畜 9月までに中間検討会のための卒業研究の実施とデータ取りまとめ 11月までに研究成果発表用の取りまとめ 1月までに研究成果取りまとめ</p> <p>【農産園芸学科】</p> <p>① 専攻実習においてカリキュラム作成によるASIAGAPの実践指導</p> <p>○農産 毎月の農作業に対応した管理・記帳の指導を行う。</p> <p>○野菜 1年次からの指導・実践を通じて、年度が変わっても取組が継続できる体制を構築する。</p> <p>○果樹 学生にマニュアルや手順書に沿った取り組みを実践させながら、GAPの意味を理解させ指導する。</p> | <p>・学校アンケート結果 (1-5)課題解決能力の向上に効果的な指導</p> |

| 項目 (何を) | R4 達成レベル・目標 (いつまでに、どういう状態にするか) | 達成状況 | R4 達成手段・方法 (重要なプロセス・チェックの方法など) | R4 自己評価結果 |
|------------|--|--|---|-----------|
| | <p>【畜産学科】 ○酪農 [1年生] 2月までに、学生が岩手農大の農場HACCP及びJGAPシステムについて理解(80%マスター) [2年生] 10月までに、学生が岩手農大の農場HACCP及びJGAPシステムについて理解(100%マスター) ○肉畜 [1年生] 2月までに、学生が岩手農大の農場HACCP及びJGAPシステムについて理解(80%マスター) [2年生] 10月までに、学生が岩手農大の農場HACCP及びJGAPシステムについて理解(100%マスター) ○職員 8月までに新採用や人事異動の職員が岩手農大の農場HACCP及びJGAPシステムについて理解(80%マスター) サーベランス審査(11月)や維持審査(9月)までに、PDCAサイクルによる当校農場HACCP及びJGAPシステムの検証</p> <p>※GAPは差分審査のため、サーベランス審査を受験しないとその時点でGAPの認証は取り消しとなる。</p> | <p>【畜産学科】 概ね達成できた。</p> | <p>【畜産学科】 ① 学生の農場HACCP及びJGAPの理解醸成 (1年生) ・農場HACCPは、飼養管理 I (概論)で第1章から第7章まで詳細に説明(4~8月) ・GAPは、「GAP概論」、畜産に特化した部分は飼養管理 I (概論)で説明((4~8月) (2年生) ・農場HACCPは、飼養管理 II でHACCP計画や記録付け等を説明、専攻(4~10月) 実習 II で特定事項の備えの通報演習や記録付けの実地。月1回学生からの提案を受け、HACCP会議で検討(4~10月) ・GAPは、飼養管理 II で労働安全やアニマルウェルフェアの説明、専攻実習 II で現場の労働安全確認やアニマルウェルフェアのチェックなど(4~10月) ② 職員の農場HACCP及びJGAPの理解 ・農場HACCP及びJGAPに係る研修会への参加等(通年) ③ 農場HACCPシステム及びJGAPの運用(通年) ・運用への学生の参加(通年) ・PDCAサイクルによるシステムの検証及び更新 ・維持審査 農場HACCPのサーベランス審査(9月)、GAPは、維持審査(10月)</p> | |
| | <p>3先進教育の充実 (1)スマート農業技術の基礎知識の習得と応用力の養成</p> <p>【共通】 ICT活用の基本知識と活用事例の学習による応用力の向上 ⇒ 作物が収穫される10月まで</p> <p>【農産園芸学科】 ○野菜 スマート園芸(果菜)における環境制御を活用した増収技術の理解と改善手法の習得(野菜経営科) ○農産 ・水稲におけるスマート農業技術の理解、スマート農機を活用した圃場管理の実践 ・新KSASによる作業・収量・品質データの蓄積 ・上記データの活用方法の理解</p> <p>【畜産学科】 スマート農業技術を利用した牛群管理方法の理解(通年)</p> | <p>【共通】 概ね達成できた。</p> <p>【農産園芸学科】 概ね達成できた。</p> <p>【畜産学科】 概ね達成できた。</p> | <p>3 先進農業技術の習得に向けた教育の充実 (1) 超省力・高品質生産の実現に向けたスマート農業技術に関する講義・実習等の充実</p> <p>【共通】 ① ICTの基本及びスマート農業に関する講義、演習、事例研究(全学科・1年、全学科2年)</p> <p>【農産園芸学科】 ①環境制御温室を使った野菜栽培の生産性向上技術の指導(野菜経営科) ・専攻実習における基本的栽培管理の習得指導(1年) ・卒業研究の取組み指導(2年) ②スマート農業技術に対応したほ場管理機械や乾燥調製施設等を活用した生産性向上(農産経営科) ・スマート農業の学習。学校所有のスマート農機の操作方法の習得。ドローン等のスマート農機の実演視察による学習 ・KSASシステムを活用による、作業日誌等のデータ記録・管理の効率化。蓄積したデータの活用方法の学習</p> <p>【畜産学科】 ① 精密飼養管理システムの活用による「牛の状態の注意深い観察」及び「牛群・個体管理情報の共有方法」などの習得指導 ② 同システムからの実データを活用した要注意牛(発情、疾病等)の早期発見及びその対応</p> | |

| 項目 (何を) | R4 達成レベル・目標 (いつまでに、どういう状態にするか) | 達成状況 | R4 達成手段・方法 (重要なプロセス・チェックの方法など) | R4 自己評価結果 |
|-------------------------|---|---|---|---|
| | 4 学生への学習支援の充実 ① 基礎学力の養成 ⇒1年終了時までに ② 農業分野に必要な数的処理力の養成と定着⇒卒業までに ③ 進路実現に向けた学力の定着⇒編入学試験までに ・4年制大学編入学合格率100%(前年100%) | ① 概ね達成できた ② 概ね達成できた ③ 4年制大学編入学合格率 67%(2/3名) | 4 学力向上支援の充実 ① 初年度教育の支援 ア 基礎学力試験の実施(4月 学力把握) イ 課外授業の実施(数的処理力養成、5~6月、5回) ウ レポート作成指導(「農業基礎」ほか、随時) ② 農業分野への就業に向けた学力定着の支援 ア 専門知識の定着に向けた演習指導(日本農業技術検定)と検証 イ 数的処理力指導(濃度計算、施肥設計、飼料設計等)随時 ウ データ処理指導(卒業研究等を中心) ③ 大学編入学希望者への支援 ア 編入学にかかるガイダンス(1年生対象、6月中旬) イ 英語・小論文対策(1年生対象、20回程度) ウ 面接指導(2年生対象、志望大学に応じて随時) | <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> ・学校アンケート結果 (1-6)学力向上など課外指導体制 A </div> |
| 1.3 豊かな人間性の涵養 | 1 組織的な自主活動と管理能力の養成 ① 学生自治会役員による自主的な運営 2 教育相談体制等の強化 ⇒組織を教育部長直轄に変更 ① スクールカウンセラーによる面談と職員との情報共有 ⇒常時 ② 学生支援相談チームが常時機能⇒4月から機能 | 1 組織的な自主活動と管理能力の養成 学生自治会役員による自主的な運営は概ね達成できた。 学外との交流行事については、新型コロナウイルス感染防止の観点から中止となったものが多かった。 2 教育相談体制等の強化 ① カウンセラーの守秘義務の範囲内で担任との情報共有がなされるなど、概ね達成できた。 ② 支援が必要な学生について、相談支援が行われるなど概ね達成できた。 | 1 学生の自主的活動の支援 ① 学生自治会活動の活性化 ア 役員による自主的な事業運営 イ 東日本ブロックの事業を通じた他大学等との情報交換促進 ウ クラブ・同好会活動 ② 自治会行事等の実施 スポーツ大会(6月)及び農大祭(10月) 2 学生個々のニーズや特性に合わせた支援の充実 ① 職員のスキルアップのための研修とOJT ② スクールカウンセラーの配置による支援体制の充実 ③ 学生支援チームによる早期の情報共有及び継続的支援 ④ 就職支援相談員による進路の個別面接指導 ⑤ 担任会議の早期開催による情報共有 | 1.3 豊かな人間性の涵養 A評価 学生自治会が積極的に取り組み、各種行事を成功させるとともに交流が図られた。 また、学生支援相談体制についても生活や進路相談などに応じており、引き続き体制づくりに努めていく。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> ・学校アンケート結果 (1-7)自治会活動支援体制 A </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> ・学校評価アンケート結果 (2-1)カウンセリング体制 A </div> |
| 1.4 就農及び農業関連企業・団体への就職推進 | 1 進路の早期決定 ① 進路希望調査を実施 2 就農促進 ① 就農希望学生の就農計画策定 100% ⇒2年生2月までに ※1、2年とも夏休み前後の進路希望調査結果を基準とする。 ② 就農率(自家就農+研修+農業法人就職) 50% | 1 進路の早期決定 達成できた。 2 就農促進 ① 達成できた。 ② 達成できた。 就農率(自家就農+研修+農業法人就職) <u>58%(29/50)</u> | 1 進路希望調査等による希望把握と進路指導の充実 ① 進路希望調査の実施(4月、7月、12月) 2 就農希望学生に対する指導の充実 ① 就農希望学生の指導経緯の情報共有 ② 就農希望学生に対する就農計画作成指導及び関係機関等との連携強化 ③ 就農準備資金の活用による就農支援 ④ 地域懇談会(優良農業者や地域機関と情報交換、研修等の実施)への出席(1年全員、2年就農等対象者) ⑤ 雇用就農希望学生向け「オープンファーム」及びインターンシップへの参加誘導(全校) ⑥ 雇用就農、農業団体希望学生向け農大OBからの説明会「進路応援ゼミ」の開催(11月) | 1.4 就農及び農業関連企業・団体への就職推進 A評価 コロナ禍で先行きが不透明な中、学生及び父母等との個別相談実施などにより希望進路を的確に把握し、支援体制を組んで取組んだ結果、希望者全員の進路を決定することができたことから、A評価とした。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> ・学校評価アンケート結果 (1-8)進路指導体制 A </div> |

| 項目 (何を) | R4 達成レベル・目標 (いつまでに、どういう状態にするか) | 達成状況 | R4 達成手段・方法 (重要なプロセス・チェックの方法など) | R4 自己評価結果 |
|------------|--|---|--|-----------|
| | 3 就職指導の強化 就職希望者の内定率 100%(前年100%) | 3 就職希望者の内定率 100%(内定者36名/就職希望者36名) | 3 就職(農業法人雇用を含む)希望学生に対する指導の充実 ① 就活ゼミの実施(1年生7回、2年生課外5回) ② いわて就職マッチングフェアへの参加促進 ③ 個別面談による進路決定、決定進路へ向けた書類、面接指導 ④ 雇用就農希望学生に向け、インターンシップへの参加を誘導 ⑤ 農大OBから在校生へのメッセージ「進路応援ゼミ」(11月)の開催 | |
| | 4 進路開拓への取組強化 団体組合8社以上、民間25社の訪問 | 4 進路開拓への取組強化 概ね達成できた。 組合、団体8団体 民間企業24社(コロナ禍による制限あり) | 4 企業訪問による求人促進及び学生へのマッチング指導の充実 ① 企業、事業所等訪問先の拡大(特に農業法人) ・ 7月中に団体組合9社、民間25社以上を訪問 ・ 個人情報であることも踏まえつつ、離職状況も把握 ② 求人企業の確保(農業法人含む) ・ オープンファームへ参加した企業にも積極的に訪問し、企業状況と学生のマッチングを促進 | |

令和4年度 岩手県立農業大学校主要課題達成状況(年間)及び自己評価結果

【自己評価結果の基準】 A(良い) B(概ね良い) C(やや不十分) D(不十分)

| 項目 (何を) | R4 達成レベル・目標 (いつまでに、どういう状態にするか) | R4達成状況 | R4 達成手段・方法 (重要なプロセス・チェックの方法など) | R4 自己評価結果 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-------------------------------|---|--|---|---|----------------|-------|-----------|----------|--|--|--|------|----|----|--|--|-----------------|-----|-------|--------|----|-------|--|----|-----|-----|----|----|----------------|-------|-----------|----------|--|--|--|-----|-----|----|--|--|------------------|---------|-----------|-------------|------------|--|--|-----|-----|-----|----|--|
| 2 多様な担い手の育成 | | | | 2 多様な担い手の育成 A 評価 コロナ禍の中、感染状況や社会情勢に応じて研修を実施し、研修回数、研修受講者及び花きセンター来場者とも概ね目標達成できたことから、本年度の自己評価をAとした。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2.1 農業の担い手育成及び農村地域リーダー養成研修の推進 | 1 就農志向者・新規就農者の育成 研修生の確保、基礎知識・技術習得と経営管理能力の向上 ① 新規就農者研修[入門コース]40名(前年37名) ② // [基礎コース] 14名(前年24名) ③ // [冬期集中簿記コース] 20名(前年8名) ④ // [経営ステップアップコース] 7名(前年4名) | 1 就農志向者・新規就農者の育成 概ね達成できた。 ① 新規就農者[入門コース] 40名 ② // [基礎コース] 15名 ③ // [冬期集中簿記コース] 24名 ④ // [経営ステップアップコース] 5名 | 1 新規就農者研修(各コース)の充実 (1) 農業者研修制度のPR(関係機関への案内、ホームページ掲載) ・ホームページのレイアウトを変更 ・コロナ対策を講じて研修を実施していくことを周知 ・遠隔地の普及センターを中心としたオンライン受講周知 ① 関係機関・団体との連携強化(農業次世代人材投資資金受給者の受講促進) ② 新規就農者研修体系の一部見直しと募集要項周知(関係機関要項配布、ホームページ掲載) ③ 独立・自営就農者支援研修への対応 (2) 各研修講座内容の充実と理解深化を図るための取組 ★研修受講時のミスマッチ解消 ・普及センターの段階で将来の方向性等をしっかりと把握し、適切な研修誘導を依頼 ① 【入門コース】 自家就農・雇用就農意向のある者を優先して選考。コロナ対策に最大限配慮し、栽培実習と講義の組合せによる就農意欲の向上 ② 【基礎コース】 自らの課題解決に向けた経営計画策定の作成への助言や経営力向上のための基礎的な知識習得、農業者間のネットワークも意識した事例研修等により実践的な研修の実施 コロナ対策に最大限配慮した研修の実施 ③ 【冬期集中簿記コース】 募集時期に合わせた普及センター等への研修参加呼びかけの強化。基礎的な簿記の知識習得とパソコン簿記の実際の活用とを組合わせた実践的な研修の実施 ④ 【経営ステップアップコース】 オンライン講義の周知など普及センター等への研修参加呼びかけの強化 受講生の経営実績に基づく経営計画の作成への助言や耕作地の土壌分析等に基づく施肥改善支援等、より実践的な研修の実施 | 1 入門コース (1) 受講後アンケート <table border="1"> <tr> <td>1 講義は役に立ちましたか?</td> <td>役に立った</td> <td>まあまあ役に立った</td> <td>役に立たなかった</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>100%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2 講義内容はわかりましたか?</td> <td>難しい</td> <td>やや難しい</td> <td>ちょうど良い</td> <td>簡単</td> <td>簡単すぎる</td> </tr> <tr> <td></td> <td>9%</td> <td>32%</td> <td>59%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>3 実習は役に立ちましたか?</td> <td>役に立った</td> <td>まあまあ役に立った</td> <td>役に立たなかった</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>86%</td> <td>14%</td> <td>0%</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>4 実習内容は理解できましたか?</td> <td>よく理解できた</td> <td>だいたい理解できた</td> <td>あまり理解できなかった</td> <td>全く理解できなかった</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>17%</td> <td>69%</td> <td>14%</td> <td>0%</td> <td></td> </tr> </table> (2) 受講後の感想 <ul style="list-style-type: none"> 研修により、やるべきことが見えてきた。 農業学校だからこそ、学ぶことが出来良かった。 農業の奥深さを痛感した研修でもありました ネット情報ではなく、自分で手を動かして、直接質問でき貴重。 講義、実習ともにわかりやすく教えていただいたと思う。 週1回で毎回数種類の野菜の作業をするため、1つの野菜の作業が断片的になった。 受講生が多いため、質問できず不適切な作業のことがあった。 岩手県における野菜栽培の流れが理解できた。 講義の資料が充実していた。説明も丁寧で分かりやすかった。 研修で得られたのは、基本知識の習得と、志を持つ方々とのネットワーク。 将来の就農を考える中、貴重な情報と機会だった。 2 基礎コース(最後の研修レポートより) <ul style="list-style-type: none"> 共通の目的を持った方達と知り合いになった。 1年でまっさらだった経営計画が形になった。 最初は言葉も分からない状況でしたが、自分の意思を具体化できた。 暖かい仲間達と無事卒業でき、楽しい時間を過ごすことができた。 同じ志の友人が出来た事がとても心強い。 農業に対する考え方に沢山触れた。 令和6年度は、公開セミナーに参加したい。 新規就農希望の人々にこの研修の良さを伝えたい。 ここでの繋がりを大切にしたい。 先生方や研修生同士の会話も大切な学びになった。 学んだことを忘れず、素晴らしい経営者を目指していきたい。 | 1 講義は役に立ちましたか? | 役に立った | まあまあ役に立った | 役に立たなかった | | | | 100% | 0% | 0% | | | 2 講義内容はわかりましたか? | 難しい | やや難しい | ちょうど良い | 簡単 | 簡単すぎる | | 9% | 32% | 59% | 0% | 0% | 3 実習は役に立ちましたか? | 役に立った | まあまあ役に立った | 役に立たなかった | | | | 86% | 14% | 0% | | | 4 実習内容は理解できましたか? | よく理解できた | だいたい理解できた | あまり理解できなかった | 全く理解できなかった | | | 17% | 69% | 14% | 0% | |
| 1 講義は役に立ちましたか? | 役に立った | まあまあ役に立った | 役に立たなかった | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 100% | 0% | 0% | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 講義内容はわかりましたか? | 難しい | やや難しい | ちょうど良い | 簡単 | 簡単すぎる | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 9% | 32% | 59% | 0% | 0% | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 実習は役に立ちましたか? | 役に立った | まあまあ役に立った | 役に立たなかった | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 86% | 14% | 0% | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 4 実習内容は理解できましたか? | よく理解できた | だいたい理解できた | あまり理解できなかった | 全く理解できなかった | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 17% | 69% | 14% | 0% | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| 項目 (何を) | R4 達成レベル・目標 (いつまでに、どういう状態にするか) | R4達成状況 | R4 達成手段・方法 (重要なプロセス・チェックの方法など) | R4 自己評価結果 |
|-----------------|--|--|--|-----------|
| | 2 農業者の技術・技能の向上 ① 農業機械の初歩的な操作の習得 ・はじめての刈払機(7/1) ・はじめてのトラクタ(7/20, 29) ・はじめてのトラクタ作業(8/2、予備8/9) ・はじめてのけん引(6/28, 8/19) ・定員各5名(けん引:2~4名) ② トラクタ運転研修 66名(前年69名) ・単体:10回30名(4、11月期:1回、5、6、7、9月期:2回、各3名) ・けん引:12回36名(4月期:1回、5、6、9月期:各2回、8月期:3回、11月期:2回、各3名) ③ 農業者向けの農業機械技術向上研修 ・はじめてのGPSトラクタ(7月、5名) ・農作業安全研修(11月、5~10名) | 2 農業者の技術・技能の向上 ① 農業機械の初歩的な操作の習得 ・はじめての刈払機 6名 ・はじめてのトラクタ 21名 ・はじめてのトラクタ作業 11名 ・はじめてのけん引 8名 ②トラクタ運転研修 ・単体 16名 ・けん引 12名 ③ 農業者向けの農業機械技術向上研修 ・はじめてのGPSトラクタ 2名 ・農作業安全研修 40名 | 2 農業者の技術・技能の向上 ① 農業機械の初歩的な操作の習得 ・定員超過:1,2名程度は受入。大幅超過は追加開催回数増(トラクタ1回⇒2回) ・開催時期を変更(刈払機:猛暑時期を回避(7月下旬⇒上旬)、けん引:受講後に運転研修を受講できる時期に設定(8、9月⇒6、8月)) ② トラクタ運転研修 ・申込状況に応じて効率的に開催する(人数、回数) ・研修方法の工夫(受講生の習熟度向上) ③ 農業者向けの農業機械技術向上研修 ・スマート農業に対応した研修を新設(GPSトラクタ、座学体験) ・個人や法人でも必要な研修を新設(農作業安全、座学体験) | |
| | 3 花き生産者・指導者の栽培新技術・流通対策等の習得 ・花き技術向上研修会開催 5回(前年6回計画。うち3回開催) | 3 花き生産者・指導者の栽培新技術・流通対策等の習得 ・花き技術向上研修会開催 5回 | 3 花き技術向上研修、花き実証展示内容等の周知(関係機関への案内、ホームページ掲載) ① 花き技術向上研修会の開催(5回) ② 花き主要品目(小ぎく、輪ぎく、スプレーギク、アルストロメリア、トルコギキョウ、シクラメン等)の栽培実証展示 ③ 新規品目の展示栽培(カンパニユラ、ダリア、クレマチス、シャクヤク) ④ 実証展示の内容と実績をホームページで情報発信 | |
| 2.2 農業に対する理解の促進 | 1 幼児・児童・生徒に対する農業理解増進 ① 農業や動植物に対する理解醸成 ・子供花育研修開催 1回(前年1回) | 1 幼児・児童・生徒に対する農業理解増進 ・子供花育研修開催 1回 | 1 児童・生徒農業体験研修、子供花育研修等の周知(関係機関への案内、ホームページ掲載) ① 近隣幼稚園、保育園、小・中学校への情報提供 ② 児童・生徒農業体験研修の開催(随時) ③ 子供花育研修開催 1回(9月) | |
| | 2 花きセンター見学利用者への花に親しむ機会の拡大 ① 県産花きの消費拡大 ② 県産花きの魅力の発信 ・花きセンター花苗展示販売会 350名(前年211名) ・花きセンター年間見学者数 8,000名(前年7,430名) ・花き消費者研修 10回(前年9回) | 2 花きセンター見学利用者への花に親しむ機会の拡大 ① 概ね達成できた ② 花きセンター花苗展示販売会 178名 ・花きセンター年間見学者数 10,588名 ・花き消費者研修 10回 | 2 花きセンター行事、展示内容等の周知(関係機関への案内、ホームページ掲載) ① 花き消費者研修の開催 ・5~3月(3コース・講座、合計10回) A:寄せ植えコース4回 B:コミュニティガーデンコース 4回 C:洋ラン講座2回 ・市町村広報等による周知 ② 施設環境を生かした行事開催と情報発信 ・魅力ある展示内容の整備 展示植物の更新、花壇整備(野の花壇の階段復元等) クレマチス、シャクヤク等見本園管理 ・花きセンター花苗展示販売会 4月 ・企画展 9月 ・農大祭 10~11月 ・ホームページの計画的更新による最新情報提供 ・幼稚園、保育園、小・中学校等へのPR実施 ・周辺の観光施設(温泉等)へのPR実施 ・ポストカード等来場者プレゼントの継続実施 | |

令和4年度 岩手県立農業大学校主要課題達成状況(年間)及び自己評価結果

【自己評価結果の基準】 A(良い) B(概ね良い) C(やや不十分) D(不十分)

| 項目 (何を) | R4 達成レベル・目標 (いつまでに、どういう状態にするか) | 取組状況 | R4 達成手段・方法 (重要なプロセス・チェックの方法など) | R4 自己評価結果 |
|---|---|--|---|--|
| 3 農大の機能強化推進 3.1 農大の教育活動成果等の周知(情報発信の強化) | 1 多様な情報ツールを活用した情報発信 ①ホームページの適切な運営 ②定期的な情報発信(通年) 農大つうしんの発行、広聴広報計画、 ③適時の情報発信(通年) 2 農大の顔が見える交流の継続 ①農大の顔が見える交流の継続(野菜) ② イベントにおける対面販売実習の実施により、地域住民等との交流を図る(果樹 継続) | 1 教育活動等に関する情報発信の充実 概ね達成できた。 全国農業高校・農業大学校デジタルコンテストで最優秀賞を受賞。 ① 店舗での対面販売はコロナのため見合わせ ② 農大祭での対面販売(1日) ③ 町北部生涯学習センターとの交流(花壇整備、センターまつりでシクラメン販売) | 1 教育活動等に関する情報発信の充実 ① 農大ホームページの適正な運用 ② 農大つうしんの発行(4回(76~79号)の発行) ③ 広聴広報計画は、毎月実施 ④ 図書館関係:県立図書館団体貸出 ⑤ 農大祭関係:コロナ禍での開催支援 ⑥ SNSの効率的な運用開始するため、要領の確認、運用 2 多様な交流の促進 ① 農大祭における果樹の対面販売実習(果樹 継続) ② 地域との花き栽培を通じた交流 | 3 農大の機能強化推進 B評価 情報発信等においては一定の評価が得られた一方で、施設整備や安全管理に関しては学校アンケートでの評価、意見が厳しいものとなっている。引き続き限られた予算や人員の中で職員がそれぞれ工夫しながらより学習効果があがるよう教育環境の向上に努めていくものとする。 特に施設維持管理に関しては、老朽化対策や予算確保の取組は行っているものの、故障等が頻発しており、引き続き必要な予算確保や適時措置等、対策に努めていくものとする。 ・学校評価アンケート結果 (5-1)校外への積極的な情報発信 A |
| 3.2 農大の教育活動の改善 | 1 学校評価結果の活用による学校運営の改善 自己評価結果を反映した業務方針の策定及び外部評価意見を基にしたPDCAサイクルによる学校運営改善の継続実施 | 1 教育活動等の評価による改善の取組 ① R4農大業務方針策定 ② R3年度自己評価確認 ③ 外部評価委員会への自己評価報告と外部評価の実施 ④ 評価結果の農大ホームページでの公表 | 1 教育活動等の評価による改善の取組 ① R3年度自己評価を踏まえたR4年度農大業務方針(業務主要課題等)の決定 ② R3年度自己評価確認 ③ 外部評価委員会への自己評価報告と外部評価の実施 ④ 評価結果の農大ホームページでの公表 | |
| 3.3 教職員を対象とした研修等強化 | 1 職員研修等による指導スキルの向上 ⇒年間を通じて 2 講義資料の共有化 授業内容の相互把握及び適切な管理 3 授業評価結果の活用 授業実施内容の質的向上による学生の授業理解度の向上 | 1 指導研究会・研修会の積極的な開催 ① 高校訪問、授業参観(水沢農業) ② 教育指導スキルアップ研修会開催 ③ 校内授業見学会 2 講義資料の教職員間の共有 ① 外部講師科目を中心に電子化済 ② 担任会議で周知 | 1 指導研究会・研修会の積極的な開催 ① 高校訪問研修会 ② 教育指導スキルアップ研修会 ③ 一般研修の開催 2 講義資料の教職員間の共有 ① 講義資料の電子化 ② 外部講師及び職員へ周知 周知:職員全体会議 点検:定期試験確認時期 | ・学校評価アンケート結果 (3-1)カリキュラム編成 A (3-2)研修、指導力向上の取り組み A |
| 3.4 カリキュラムの実行と検証 | 1 カリキュラムの実行と検証 ・ GAP・スマート農業に係る新カリキュラムの充実化 ・ 既存カリキュラムの実行と検証 | 1 カリキュラムの実行と検証 ・ 農業教育高度化プランにより事業実施 ・ ワーキンググループによる検討 | 1 カリキュラムの評価と改善 ① 農業人材力強化総合支援事業の農業教育高度化プランに基づく 新たなカリキュラムの改善と運用(4月~3月) ②カリキュラムWGによる授業評価等に基づく検討(6~9月) | ・学校評価アンケート結果 (3-1)カリキュラム編成 A |

| 項目 (何を) | R4 達成レベル・目標 (いつまでに、どういう状態にするか) | 取組状況 | R4 達成手段・方法 (重要なプロセス・チェックの方法など) | R4 自己評価結果 |
|-----------------------------------|--------------------------------------|--|--|--|
| 3.5 効率的な施設 管理と整備の推 進 | 1 大規模施設整備計画の見直しと整備の促進 | 1 施設整備計画の策定と整備の実施 概ね達成できた | 1 施設整備計画の策定と整備の実施 ① 農業機械・設備機器等の利用状況の共有と更新計画作成 ② 施設整備検討委員会の設置及び開催 ③ R5大規模施設整備計画の見直し及び予算要求 ④ 大規模施設整備計画の実施 ・ 学生寮エアコン設置工事設計業務 ・ 敬明寮ボイラー更新工事設計業務 | ・学校評価アンケート結果 (3-3) 施設設備の整備(教育的見地) B (3-4) 施設設備の整備(安全的見地) B |
| | 2 施設修繕箇所の把握と適切な安全対策の実施 | 2 農場等運営委員会・安全管理点検委員会 による修繕箇所等の把握と対策の実施 施設の老朽化に伴う維持管理に対応したが、 件数が多く予算確保が課題。 | 2 農場等運営委員会・安全管理点検委員会による修繕箇所等 の把握と対策の実施 ① 管理チェックシートによる安全点検 ② 安全管理点検(安全管理点検委員会:自己点検、実地点検) | ・学校評価アンケート結果 (3-4) 施設設備の整備(安全的見地) B |
| | 3 修繕経費の予算確保 | 3 修繕経費の予算確保 突発的な施設設備障害等について、執行協 議を行い補正予算による予算確保を行ったが、 件数が多く対応に苦慮した。 | 3 修繕経費の予算確保 突発的な施設設備障害等について、執行協議を行い補正予 算による予算確保 | |
| 3.6 安全・衛生管 理 体制の整備 | 1 安全・衛生管理体制の整備 | 1 安全管理点検委員会・職員衛生委員会に よる安全点検 と対策検討・実施 (1) 安全管理点検委員会 概ね実施できた (2) 職員衛生委員会 概ね実施できた | 1 安全管理点検委員会・職員衛生委員会による安全点検 と対策検討・実施 (1) 安全管理点検委員会 ① 安全管理点検等の実施等(委員会3回、実地点検(ヒヤリ・ ハット点検含む)2回) ② 毒物劇物及び農薬・肥料・試薬管理体制の周知 ③ 作業安全啓発パンフレットの作成・配付 (2) 職員衛生委員会 ① 衛生委員会の開催 ② 救急救命講習の実施 ③ 健康推進事業 ④ 職場環境巡視点検 | ・学校評価アンケート結果 (3-4) 施設設備の整備(安全的見地) B (3-5) 防災体制 A |
| 3.7 復興支援の継 続と災害即応体 制 の整備 | 1 東日本大震災の復興支援の推進 2 災害に強い体制の維持 | 1 これまで培われてきた繋がりを絶やさぬ復 興支援 要請なく実施せず 2 防災体制の構築と備えの促進 (1) 災害即応体制の継続 概ね実施できた (2) 学生による自主防災組織体制の構築 概ね実施できた (3) 業務継続体制の構築 概ね実施できた | 1 これまで培われてきた繋がりを絶やさぬ復興支援 被災地の要請による特産品の農大祭でのPR 2 防災体制の構築と備えの促進 (1) 災害即応体制の継続 ① 自衛消防隊編成の見直し及び業務内容の明確化 ② 防災訓練の実施(当直専門員・専任舎監含む) ③ 非常招集体制の整備、連絡訓練の実施 ④ 円滑な除雪の推進(12月～3月) (2) 学生による自主防災組織体制の構築 ① 学生自治会による防災体制の構築⇒4月に体制整備 (3) 業務継続体制の構築 ① 災害時業務継続計画(BCP)の業務継続マネジメントに よる見直し及び必要に応じた業務支援要請 ② 農業大学校新型コロナウイルス感染症対応マニュアルの 状況に応じた見直し | ・学校アンケート結果 (3-5) 防災体制 A (学生自治会活動) (1-7) 自治会活動支援体制 A |